

「まさか」に備えて私達ができること 自助

東日本大震災では、「想定外」の災害で多くの命が失われました。

私たちはこの災害を教訓にしなければなりません。

災害が起きる前だからこそ、私たち一人ひとりが災害に備えておくことが必要です。

■非常持ち出し品の準備

- 非常食や水は3日分を！
- 必要なものを家族で話し合う！
- 持ち出し品の点検は定期的！
- 保管場所は、複数に分けて！



■家族の集合場所、連絡先の確認

- 一時避難所、収容避難所を確認！
- はぐれた時の落ち合う場所を決める！
- 緊急時の連絡先と方法を確認！
- 家族の日常行動を把握！



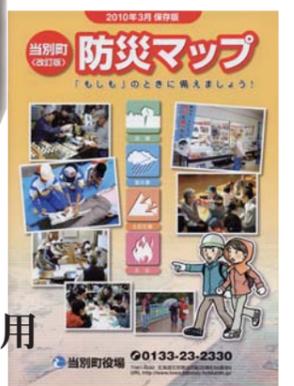
■自宅の安全確認

- 家具の固定や配置の見直しで下敷きになることを防止！
- 窓ガラスに飛散防止フィルムを張る！
- 自宅の耐震診断と改修



■当別町防災マップを活用

- 当別町防災マップ（平成22年4月に全戸配布）には、地震や洪水などの災害時の行動や事前の備えなどの情報が掲載してあります。家庭や地域の防災対策に利用してください。



自分の命と家族の命を守るために、家族で防災会議を！

自宅にいるときに地震が起きたら、家族全員の安全を確保できますか？ また、災害時に家族全員が自宅にいるとは限りません。日頃から家族で災害がおきたら何をすればよいのか話し合いましょう。

元町自主防災組織

みんなで運営する 防災倉庫

元町自主防災組織会長 山下義則さん

元町は町内でも一番古くからある住宅地で、455人が暮らしていますが、高齢化率が35%を超えています。災害が起きた時は町内会の皆さんに「3日間は何とか持ちこたえてください。」と話していますが、高齢者世帯には特に厳しいことです。そこは町内会が何とか手助けしなければならない。そこで、平成20年に中古の車庫を購入。町内会で毎年予算を組み、寄付を募り、これまで、ガスコンロ、調理鍋、発電機、スコップや簡易トイレなど少しずつ防災用具を整備しています。

今年度は寸胴鍋など調理器具を揃えるつもりです。防災に限らず、地域活動でも使えるものから揃えているので、育成会や老人クラブに無料貸し出しをするなど、点検や訓練も兼ねて普段からも利用しています。

東日本大震災の教訓から、指定避難所になっている学校や体育館、公共施設の空きスペースに、これら防災用具を置かせてもらうのがベストと考えますが、そのような行政的な制度や手続きが整うまでは、自分達が出来ることがしなければなりませんね。

また防災用具の整備のほかには、災害時を想定した図上訓練や消防署の協力のもと、救急救命の講習も受けています。まずは役員の中でこれらを習得し、今年は各班長、そして住民全体へ拡げていく計画です。

この防災倉庫は、元町の自慢の一つですが、土地もご好意で借りていますし、車庫の移築や棚の整備も大工仕事のできる方が担当し、冬期間は近所の方が交代で除雪をするなど、みんなで運営しているのです。



防災用具を点検する元町町内会役員の方々



重いものはカスターが付き、お年寄りも運べる工夫も



右から山下義則会長と役員梅枝正春さん、林英幸さん

NTTドコモ緊急速報「エリアメールサービス」を導入します。

新たに緊急情報サービスが開始されます。

これは、株式会社NTTドコモのサービスを利用し、町内にある同社の携帯電話に対して、緊急情報等のメールを配信するもので、不特定多数の方に緊急情報を迅速かつ正確に伝達する体制が一層充実・強化されます。(NTTドコモの携帯に限ります)

サービスは10月1日から開始され、配信される情

報は、緊急地震速報、町から発信する避難勧告や避難指示等の緊急性の高い情報になります。受信の際には専用着信音と共に自動的に携帯電話の画面に情報が表示されるため、複雑な操作は必要ありません。

今後、他の携帯電話会社で同様のサービスが開始された場合には、別途お知らせします。

【問合せ】総務部総務課総務係 ☎ 23-2330